

南陽市自分ごと化会議
第2回会議 議事概要

日時	2024年10月6日(日) 13時30分~16時30分
場所	赤湯公民館(えくぼプラザ)1階大会議室
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聡

第2回会議の振り返り

【南陽市の教育の現状】

- 部活動について
 - ・廃部や休部になる部活動の増加
 - ・多様化する中学生のやりたいことに対応する受け皿の充実
 - ・団体活動を通じたコミュニケーション力の向上
- 幼保小中一貫教育について
 - ・年中から15歳までの学びに連続性を持たせる
 - ・進学時に生じるギャップを乗り越えるためのサポートの充実
- 不登校について
 - ・不登校の要因は様々(人間関係、家庭環境、個人の性質 etc)
 - ・低学年の不登校が増加
 - ・個人の状況に合わせた多様な学びの場を提供

【10年後の南陽市の中学校の在り方】

- 生徒数の減少と学校規模の縮小について
 - ・生徒数が約3割減り、標準規模のクラス数を維持できなくなる
→クラス替えや学年主任の配置ができなくなり、免許外の教員が担当する教科が出てくる
 - ・同級生や先生の数が減ることで多様な人と交流する機会が減る
 - ・教員の負担増(専門外の教科の勉強、先輩教員がいない)
 - ・教員OBや地域、個人が学校と関わることで解決できることもある
- 学校統合について
 - ・社会に出るまでの期間に早いうちから色々な人間がいることを知る機会が持てる
 - ・部活動等で多様な選択肢を持つことができ才能を伸ばすことができる
 - ・関わる大人の数が増えるほど1人1人の多様な子供たちに対応しやすい
 - ・母校がなくなるさみしさ
- その他の意見
 - ・義務教育学校や中高一貫校の検討が必要ではないか
 - ・将来の進路に出会う場が必要(職業体験、保護者による説明会)
 - ・主役は子供たちなのだから子供達にも意見を聞くべき
 - ・統合と統合しないことのメリット、デメリットを整理すべき